苫小牧 柏原の原野でハスカップの分布調査

国内最大の自生地とされた勇払原野のハスカップの現状をつかむため、NPO法人苫東環境コモンズ（事務局苫小牧）と苫小牧市美術博物館は2日、苫小牧東部工業地域（苫東）の市内柏原の原野で植生調査を行った。今年から両者が協力して調査を進める方針で、今回は初の共同作業。調査地では花を咲かせたハスカップの木を多数確認したものの、湿地帯の乾燥化の影響からか、立ち枯れも目立ち、関係者から自生地の環境変化を心配する声が上がった。

ハスカップの木を調査する草苅事務局長と小玉学芸員（右）

苫東環境コモンズ　市美術博物館

自生地の変化 乾燥化か 原因 懸念

立ち枯れたハスカップの木

調査に同行取材した、苫東の原野を横断する測路の脇を車を止め、歩いて調査が目に飛び込んだ。コモンズ事務局長の草苅健さんは「この辺で1番大きなハスカップの木。シンボル的な存在です」と言った。

今回の植生調査は、コモンズから草苅さんを含めて3人、市美術博物館から小玉晋子主任学芸員が参加した。この日の調査区は0・4㌶。コモンズのスタッフはGPS（全地球測位システム）3台を使い、ハスカップ、ベニバナヒョウタンボク、ハンノキの分布位置を正確に記録した。小玉学芸員はハスカップの花の写真を撮影し、植生をメモに記録した。

ハスカップによく似た木が横倒しになっていた。幹は白く変色し枯れている。「ハスカップに近い種のベニバナヒョウタンボクです。環境の変化のせいか、枯れている木を多く見掛けます」と草苅さん。近縁種が枯れ始めているということは、ハスカップにも同様な状況が起きているかもしれない」と心配した。

原野を進むと、ミズナラやハンノキが多くある場所に出た。一帯が乾燥化し、樹木が生い茂るようになってきている可能性がある。青々とした葉を付けたミズナラの木の下に、乾燥化の影響からか、立ち枯れしたハスカップが目に付いた。

コモンズによると、約40年前に行われた植生調査では、苫東地区の群生地1㌶当たり2500本のハスカップの木があったという。今回の調査地では、立ち枯れの木も多かったものの、昔のように自生種の密度の高い場所も確認。草苅さんは「今回の調査で改めて国内最大の群生地であるとの実感を得た。美術博物館とは今後もエリアを分担して調べていきたい」と意気込み、小玉学芸員も「他のハスカップ自生地との学術的な比較をしてみたい。最終的にはハスカップ保護につなげたい」と話した。

コモンズは、2013年から同地で独自に植生調査を行っている。この日や月内の作業を含めて計2㌶の調査データが得られ、結果は27日に市サンガーデンで行うフォーラムで発表する考えだ。

（渋谷賢利）

枯れている木を多数確認

●国内最大の群生地と実感